

## フィリピン・セブ

### ニュースレター VOL.3

カムスタカ？（セブアノ語で、お元気ですか？）

フィリピンはセブ北部へ派遣中の0-4病棟の加藤です。ニュースレターを通して私の活動をお伝えしています。今回は「**Operation Tuli**」をレポートします。

#### 世界赤十字デー

毎年5月8日は「世界赤十字デー」。赤十字に関わる一人ひとりが、赤十字の原点に立ち戻る日です。フィリピン赤十字社（以下、フィリピン赤）は、フィリピン各地で赤十字の存在や活動を広く知ってもらうためのPR活動を様々な形で行いました。

#### Operation Tuli って・・・？

このPRの一つとしてフィリピン赤 セブ支部が行ったイベントが、「**Operation Tuli**」。実はこれ、「包茎手術を団体で行うフィリピンの伝統的儀式」、つまり割礼のことなんです。WHO（世界保健機関）によると、世界の15歳以上の男性のうち包茎手術を受けた人は約30%なのに対し、フィリピンではなんと90%以上の男性が手術を受けています。（※1）

今小学校は夏休み真っ盛り。この休みにあわせて手術を受ける子供が大勢います。

一方で、フィリピンでは貧困格差が社会問題であり、手術費用を払えない貧困層の子供も沢山います。今回は、手術の機会を無料で提供するということもあり、大勢の子供達が集まりました。ボランティアの医師や看護師の協力を募り、1日で総勢137名の手術を行いました。



朝8時。手術を希望する子供と両親で、会場は満員御礼状態。



1部屋で一度に7~8人の手術を行います。



限られた資機材でやりくりします。やってもやっても準備は終わりません。



中には怖くて逃げ出す子供も。手術に対する意思確認は手術直前にも本人に行います。



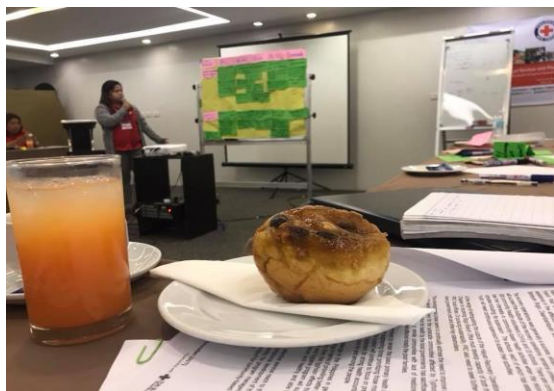
0-4病棟で子供の処置介助についた経験が役立つ瞬間！

## 国が違えば慣習も違う

割礼としての包茎手術は、日本では馴染みがないですね。でも、フィリピンではこの手術を受けることや、団体で一度に手術を受ける風景は、ごく普通のことです。スタッフからは「日本の男性はみんな受けてないの？ どうして？」と真顔で質問されました。また、今回のイベントでは、消毒方法の違いや、複数の患者様の手術が一度に行われる状況には、少し戸惑いました。

「国が違えば慣習も違う」。

これは勤務中や日常生活で日々感じることです。違いを尊重することは派遣要員として大切な心がけです。とはいえ、意見や価値観の違いに戸惑ったり分かり合えないことも時にあります。。「違いを違いとして受け入れる」心のキャパシティを広げていきたいものです。



フィリピンには「ミリエンダ」というおやつタイムが午前と午後にあります。会議や研修中でもおやつが登場します。これは嬉しい習慣の違い・・・♪

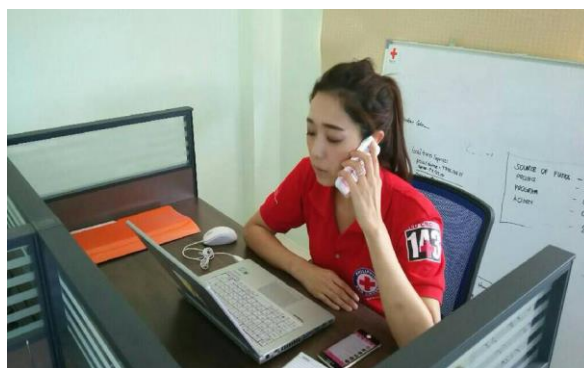
## 広報活動にも挑戦中

赤十字の活動や事業を多くの人に知ってもらうためには広報活動が重要です。この広報活動も派遣要員の大切な仕事なのです。

今回の「Operation Tuli」についても新聞会社に取り上げてもらえないか交渉し、記事として取り上げてもらうことができました！



5月9日付けの日刊まにら新聞（新聞社より掲載許可を得ています）



オフィスにて、新聞記者からの電話取材に対応中。

早いもので、派遣されて3か月以上が過ぎました。フィリピン料理をしっかりと食べて、残りの期間も引き続き頑張ります！



セブでは日赤要員2名で活動しています。

次回号のピックは・・・  
「船を乗り継ぎ、離島の事業地へ」  
です。お楽しみに♪

※1:以下参照

WHO ホームページ「WHO to develop new guidelines on male circumcision」  
<http://www.who.int/hiv/mediacentre/news/gdg-male-circumcision/en/>

（WHO は、自発的な包茎手術を HIV 感染予防策の一つとして打ち出しています。特に若年層に対して推奨しています。）

2018年6月 加藤加奈子